

川柳の権正

五月號



★最高權威の月刊柳誌

川柳雜誌 五月號目次

★

表紙	紙……(大阪・中之島風景)……福富雷童
内外時事	……
生々庵氏の近業	不死鳥……(一)
プレミアム	小山文三……(二)
月川柳一ト筋	路郎・丹路・かほる……(六)
評	孤蓬・八歩・銃人……(六)
焦士に愛書を贈る	森 東魚……(二)
ユーモアを探る	……
今日はお祭?	高田義一郎……(二)
武玉川四篇研究	森本 塵山……(八)
似て非なるもの	姪子省二……(三)
川柳横町	山本 葉光……(五)
柳川二千六百年史	戸田 孤蓬……(三)
柿の木	姪子省二……(三)
貝 釘	岡田 某人……(三)
改名	吉田 水車……(二)
漫畫陣中鏡	北 みきき……(五)
三人 衆	姫田 夕鐘……(二)
	水谷 貼美……(三)
	須崎 豆秋……(三)

★

近作柳鏡	麻生路郎撰……(一〇)
川柳 塔	麻生路郎撰……(四)
同舟近跡	諸 家……(七)
不朽洞句抄	麻生路郎……(一)
一やけど	福田山雨樓撰……(四)
集商店法	吉田水車撰……(四)
各地柳壇	……(六)
柳界展望	……(二)
川柳 協	……(五)
後記	……(一〇)
社関係の人々	……(一〇)

★兵士は戦線に！我等は銃後に！！

ルービヒガー

社会式株酒麦本日大



すげま上り祈を康健御の家欣愛

公債・社債・株式・金融

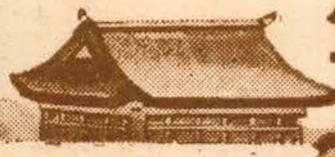
藤本有價証券投資組合幹旋

藤本ビルブローカー証券株式會社

大阪市東區北濱五丁目卅番地

支店 東京・横濱・静岡・福島・小樽・名古屋
 金澤・京都・神戸・岡山・廣島・松山
 門司・福岡・臺北・京城・新東京・奉天

紀元二千六百年



神詣

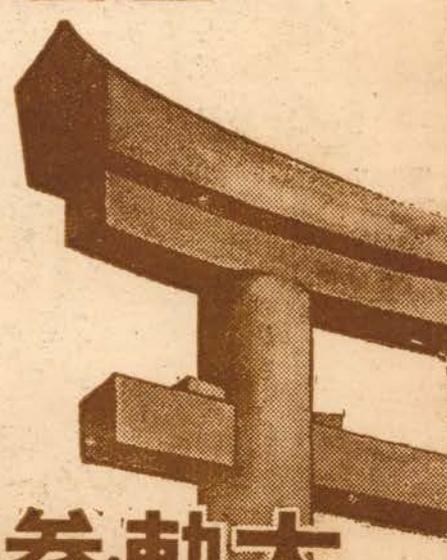
伊勢大神宮
 熱田神宮
 榑原神宮

石上神宮
 天理驛下車

大神神社
 櫻井驛下車

枚岡神社
 枚岡驛下車

春日神社
 良 春日神社
 大軌奈良驛下車



大軌急参鐵電

Pensoj flugas trans
la land-limon

川柳雜誌

196

第十七卷 第五號



影攝雨絛——(幹主郎路)窓の社

抄句洞朽不

郎路生麻

赤煉瓦人の出入りを見ぬこいふ
ぬけさくの扱ひされて詩に知られ
しづかさは白髪の話なごをして
葱、赤蕪、奥様の短歌
目刺でもいゝさこ靴下をぬぐ

★内外時事★

☆皇太子殿下御降學(四月八日)
★獨軍・丁抹首都コペンハーゲンを占領(九日)
☆獨軍・ノルウエーの首都オスロを無血占領(九日)
★赤穂四十七士の一人萱野三平の遺跡として知られる豊能郡萱野村宇芝の舊邸が廿日附で大阪府史蹟名勝天然物顯彰規程により府史蹟として指定された(廿日)

生々庵氏の近業

……富士高原兒童養護道場の事ども……

★松坂俱樂部川柳講座の會員、生々庵中島蓬太郎氏(醫學博士)の近業、富士高原兒童養護道場に就いて簡単に紹介したい。
★柳誌に兒童養護道場の紹介は道場長たる生々庵氏自身にまつても有難迷惑かも知れないが、名利を度外視した斯かる文化的社會事業が一川柳人

の手によつて創設された事が如何に吾人を欣然たらしめたか、同時に川柳人すべての誇りすべきものだに信じたからである。
★兒童養護道場の所在地は山梨縣南都留郡中野村山中湖畔にある。

★兒童養護方針——醫療設備があり、醫師、看護婦、衛生婦が常住してゐる。訓育部は専門の教師及び寮母の下に教育と訓練の生活、一步戶外に出れば大自然に直面、教育と訓練の一大教室。

★兒童の起居——兒童は日出時刻と同時に一齊に起床、検温と健康調査、寝具の整頓、洗面後室内及庭園の清掃、朝禮、宮城並に神宮遙拜、國旗掲揚(國歌合唱)、靈峯富士を仰ぎつゝ、ラヂオ體操をなし一同朝食。午前——訓話、學習、遊戲化作業(花壇菜園の手入、鶏



隊樂音軍踏るけ於に來懐古蒙
長隊部(國、田岡)は者揮指

遊戯化作業(花壇菜園の手入、鶏

兎小鳥の世話)正午晝食。午後午睡(冬期日光浴)検温後自由學習、ラヂオ體操、オヤツの時間自由遊戲、入浴、夕食
★指導要領——虚弱兒童の學習は自ら學び又は自ら爲さんとする心持を捉へ、自學輔導の立場に於て履修せしめ入場當初に嚴重なる諸般の検査記録を作製し、新しく築かれゆく體質の改善に努力する。
★服裝及所持品——制服は無料貸與、所持品は道場規定に據る。
★職員——道場長、醫學博士中島蓬太郎、總監督、陸軍少將持永淺治、道場主事、主事補書記、教師、保母、醫員、看護婦、榮養士等。
★敷地、建物、生々莊、設備、入場手續、入場出來得る兒童、期間、料金其他について詳細は大阪府南區三休橋富士高原兒童養護道場大阪事務所へ問合せされたい(不死鳥)

(上左)望遠を峯巒の士富りよ惠道 (下右)門正館本惠道



コウモアを探る

②

今日はお祭？

高田義一郎

我々の家は林の中の一軒家で人はめつたに
通らない。

小学校一年生の女兒をつれて、市内へニエ

ース映畫を見に行く。東京は何處へ行つても

押すな〜の雑踏なのを見て、子供が私の耳

にさゝやいた「今日はお祭？」

次は知人の話。知人が郊外に住んでゐた

時、その人の男の子が、葬式の柩の通るのを

見て、「お祭だね。お御輿が通るよ」と云

つたとの事。幼兒はたくまずしてユーモラス

な事をいふ。

筆者——醫學博士、法醫學の權威、ペンネームは眞爲細穂又は細老人

三人集

★ 田舎に住めば 姫田夕鐘

義妹が先日北滿より歸國して

來たが何分重くらしい防禦用の

毛皮を着用してゐるので田舎の

人々の眼を驚かした。その後學

校の先生達へ挨拶に出かけた

異様な服装に巡査が尾行した。

先生にどの娘でどの様な用件

で訪れたかを糺したところ此の

學校の教へ子で滿洲警備の軍人

の兄の宅に居つた由を告げると

硬直した表情をほころばして實

ものは出てゐてなつかしき

ものです、——故郷へ還つた

た。

☆☆ 水谷鮎美

ペベルモコ(望郷)を三度も見

た。みぬまでの題から受ける感

じはひじょうにせんちなほうむ

しつこのひとすじ徑の映畫と思

つた。觀賞してみるとはからん

やギヤング映畫であるがみてる

るとにんげんの異性に對する香

しきものが出てゐてなつかしき

ものです、——故郷へ還つた

た。

た。

焦土に愛書を掘る

森 東 魚

雪は雨となつた。細かい雨脚

が焼跡に針の様に躍つてゐる。

失火の責任上昨夜を警察の刑事

室に明かした私は、流石に寝不

足と心勞とで頭が虚ろのやうに

なつてゐた。現場を臨検する警

察官と連立つて來ても少しも口

をきく氣にもならない。茫然と

焼跡を眺めて佇んでゐた。曠て

昨夜の光景がまざ〜と私の眼

底に浮び上つて來る。霏々とし

て降りしきる春雪の中に、強風

に煽り煽られた煙が渦巻き上り

躍り狂うて低い雪空を焦がす許

りに火の粉が飛び散り舞ひ上つ

て行く。その中に最後の抵抗を

試みる様に、露らはになつた柱

や桁や梁が尙焼け崩れずに黒々

と見えてゐたが、所詮は數分の

後、灰になるであらうそれを思

へば見るに忍びぬ目を伏せて立

ち去つた私であつた。

未だ臨檢の濟まない焼跡は焼

けた其儘の姿になつてゐる。階

下の一部が倉庫であつたが其處

に收められてゐた十數台の電動

機やうづ高く東ね重ねられた鋼

索類や、乃至は數台の唧筒など

妖しいものゝ影の様に、焚埃り

の中に黙々と蹲まつてゐる。

焼けた建物は階上が事務所と

合宿所に充てられてあつた。其

含宿の青年達は皆借り着の異様

の出立ちをしてゐる、寝巻の上

に土工の印絆纏を着てゐるのも

ある。袴の合はない作業服を着

てゐるのも居る——皆それ〜

焼跡の心當りを掘り廻つては、

笑ひ合つたり、元氣な叫び聲を

交はしたりしてゐる。(オイ、

腕時計がこんなになつてゐる

ぞ〜)、(銅貨が二枚くツ着いて

居るよ)(これは僕の鞆の金具だ

ぜ)そんな聲々が聞えたりして

來る。

さうした元氣な青年達を見て

私は始めて涙がこぼれて來た。

悲しみともなく口惜しさともな

く異様な感情の湧き上がるのを

覚えるのであつた。

一となめに乞食同志の泣

き笑ひ

ふとこんな句が私の口をついて

出た。

全く夢のやうだと云ふ外はな

い。然し事實は何としても事實

なのである。全焼なのである。

何一つ焼残つてゐる筈がない。

未練らしく求めてみた處で無駄

な事だと諦めては居たものの、

私は直ぐ此處だと知れる私の部

屋の位置を見廻した。と、目

に入つたのは澤山の雑誌や書物

の焼けた山である、私はつか

〜と歩み寄つて其嵩に手をか

けた、焼切つた部分は忽、こそ

りと崩れて黒い焼滓がばら〜

と飛び散つた、焼け切らぬ部分

は、消火の水と雨雪に濡れ盡く

して、引き起すと雫する許りに

その白々と跳へる頁が痛ましく

目にしみる。私は、よせば良か

つたと思つた、が止められな

かつた。愛する者の骸を抱くやう

な心持、とても云はうか——私

は一と嵩〜に靜かに片付けて

行つた。

(あら、これが焼けずにゐる)

私は思はず聲を立てさうになつ

た。それは澤山の雑誌類に、深

か〜と圖はれて、周はりだけ

が焦けた許りの和書が一冊残つ

ある。然し此の一冊の和書を見

出したばツかりに、却て失はれ

た數々の古書への愛惜が彌やが

上にも募り來るのは何うした事

であらう。人の心の弱さと云ふ

のか、悟られぬ人間の怨と云ふ

ものか、私は自を嘲ける苦笑を

禁じられぬ氣がされた。

警部補は帶剣をがちゃ〜さ

せて、風呂場の廻りを調べ歩

いてゐる、焚口へ木片を押し込

で其懐ろの深さを測つたり、附

近の見取り圖を書いたりしてゐ

る。昨夜風呂を焚いた雇女が、

失神したやうな無表情な顔で傍

らに立つてゐる。時々警官の問

ひに何か鋭い答を返へしてゐ

る。私は助け得た其寫本を大事

に掌に載せて靜かに其方へ歩み

寄つて行つた、流れ放しの水道

がこぼ〜と不氣味な音を立て

ゝ居た、雨は尙蕭條と降り濺ぐ

のである。(完)

文 宣
童 傳
映 畫

16 ミリ
35 ミリ
トーキーとサイレント

製作・發賣・配給



大阪市東區堺筋本町交又点
合資 深田商會映畫部
電話附番 四四四一—四四四三

て居るのを見出した時である。

折重なつて身を以て守つてゐて

呉れたやうな雑誌が今更有難く

も哀はれにも思はれるのであつ

た。助つたのは萬句合の寫本で

夕鐘君とは何んのか、わりもな
いのですが心のふるさとに生き
ることはうれしい極みです—
ございますから……」とか何とか



「三人が酔へば三人らしくなり」
路郎先生のこの短冊を頂戴して
ゐる小生には豆秋、夕鐘、鮎美
のことだともおもへてこの寫眞
はうれしいもの一つです。

☆☆☆ 須崎豆秋

これはある友人から聞いた話
であります— 某遊廓地の門
限統制は、たいへん時局調であ
り又面白い光景だそうで、十二
時が近づくと廓中へ聞える大擴
—寫眞は夕鐘(右)豆秋(中央)鮎美(左)

夕鐘君を送る夕

三月十三日夜

於 アサヒ軒

三人の酔ひ今宵かきりこ思はれず
アサヒビヤ百々夜通ひをして別れ
ふるさこへ歸る燕の日こなりぬ
豆 秋 鮎 美 夕 鐘

プレミアム

小山文三

好調時代には證券界にプレミ
アムの附くのは経済上の原則で
ある。筆者はプレミアムの概念
を説かうとは思はないが、近頃
珍しい處にプレミアムが附いて
ゐるから此珍奇なプレミアムを
説いて見たいのである。

綿糸、綿布や人絹布の割當や
配給切符制が敷かれてから、此
切符にプレミアムがついて相當
高値の權利賣買の有るのを聞い
た事がある。ガソリン配給切符
にプレミアム付の轉賣のあるの
も隠れたる事實であるらしいの
は妙な現象である。

寶塚の歌劇座席券や、甲子園
の野球觀覽座席券にはプレミア
ムがついて公然と券面額以上に
取引されてゐるのは今更始まつ
た事ではない。此れ等も前賣の
便利を計つた逆効果と言ふ可き
であろう。

東京寶塚劇場や、有樂座觀覽
券にも同じ様にプレミアムが附
いてゐるが當日賣れ残つた分は
は往々にして定額以下に投げ賣
りする場合もあるらしい、筆者
は去る日東京有樂座で満員賣り
切れの一等席を半額以下で其入
口の前に立賣してゐるさる洋服
男から數枚を買つて觀劇した經
験を有つてゐる。

大阪市電やバスの切符は立賣

アムが暗躍し初めるものであ
る。や闇相場を聞かないのはせめて
もの慰めである。

切符制裏にうごめくプレ
ミアム
昭和五—二—七稿

似て非なるもの

山本葉光

嚴守されてゐる監視の眼もキツ
イからプレミアム付きの取引は
聞かないが、米には新米、古
米、外來米、上米、下米などを
混ぜて其銘柄を胡魔化さんとす
るし、酒には水を割る手もあつ
て、やはり變態的なプレミアム
を稼ぐ裏道もあるらしい。

炭屋が配達の御祝儀を欲しそ
うにしたり、石炭屋がガソリン
の違つたものを持ち込んで來て
も苦情が言へないのも無形の精
神的なプレミアム提供と言ひ得
るかも知れない。

郵便切手や葉書や、たばこ等
の專賣品には流石にプレミアム
に於てすら適切な治療薬を缺
き徳性にありては殆ど手術的
解決を用ふるのが常である。
然るに近代化學の精華と謂は
る「ズルフォン」アミド、時
に二個のズルフォンアミド基
を有するアルパジルが耳科的
方面に應用範圍が擴大される
に及んで、中耳炎の療法は劇
期的な進歩を見るに至つた。
即ち、難症のものすら單に内
服するだけで膿汁の停止、解
熱、疼痛の緩解等治癒經過の
驚くべき短縮に成功せしめ、
中耳炎に確信ある療法を樹立
するに至つた。

中耳炎に

アルパジル錠

包裝
錠劑(〇・五)
二〇錠・百錠
粉末注射有



川柳塔

路郎選

京洛吟行

大阪 戸田 孤篷

このおべゞ虚空藏さまにもお見せしよ
まだのせるつもりか支線待つてるる
木像の只黒々み祇王祇女
鶯の姿見つけた銀閣寺
小原女を用もないのに呼び止める

兵庫縣川西町

戸倉 普夫

皇靈祭みんな出掛けて濡れる旗
インテリを誇つてる間に嫁き後れ

福知山

小畑自由朗

日本の餘悠めしだけ喰はぬ犬
縣議邸ありて乗合バス停る
知事代理府廳に訪へば庶務の隅
令嬢の口繪娼妓の嘲笑ひ

金刀比羅宮

大阪 橋本 緑雨

栗林公園

石段を敷へ切らずに拜むなり

紫雲山背景にして名が高し

陸まじく遍路へ話切れぬなり

人混みにじやまがられてる遍路笠
夜食をば素うごんにする旅戻り

故福田鶴峰君を悼む

旅便り一枚へつた寂しさよ

宮崎神宮に詣つ

一木一草悉く神の國

鶴戸神宮奉拜

その昔鶴戸へ七浦七峠

霧島神宮に祈念

靈山に瓊々杵尊神靜まる

靈峯高千穂峯登攀

聖峯を下りて草鞋の有難味

攝原神宮に參拜

御歳百三十七才ミ宮司の書

大阪 奥村 丹路

善良な夫婦お汁粉屋へ入り
脂粉の香はたちに満たす酌婦でる
赤ん坊時に鋭き眼を放ち
電線の雀氣樂な身に生れ
口頭試問嘘もちよつびり言うておき

張家口 岩崎 柳路

素足でも失禮でない御時世だ
支那樂のさて婚禮か葬式か

法廷の菊子へ

編笠の袂の紅絹も哀れなり
性慾を鏡に恥じる顔の皺

兵庫縣 寺井 鋭々

シャボテンを愛する程の偏屈さ
空堀を酔うてる方が忘れない
夜櫻も知らずミンシンの出来上り

鐵屑隣り工場櫻咲き
喫茶から出て春シヨールまだ歩き

大阪 大西 八歩

出稼ぎが米を送れ云うてくる
繩のれんレベルを下けた顔でくる

裾のあたりににじむ貧しさ
盃の中の議論がもたいなし

インフレがこゝ迄のびた枕金
五分五分の兄弟を持つ新世界

横濱 福田山雨樓

ハワイ 高澤 一浪

サーピスは男にこりてゐるて上手
常識があつて腹たつこまばかり
ほろくそに言はれ言はれて石の門
目立たない遊びじやマダム物足らず
切れませうなききは腹にないこまを
木石にあらぬ閣下の噂きく
戀すて、第二夫人さしてた、ん
貴女マ、私はバ、で生きませう
得心を無理算段の金でさせ
病む母があるからだます眉も引く
女房に向く話して三本目
損得を忘れりや白髪殖えません
年甲斐か白粉臭いのにも飽き
なす儘になつてもチツブだけだつた
案の定肉賣らんかさ仰せらる
午前二時働く人に出逢たり
三角だ四角だ流石女なり

★

尾崎 酒井 斗風

映畫館はるの笑ひがこみあける
双葉山取りまく群に拘摸がるる
豆炭を夫に買はず公休日

大阪 北川 春巢

腹の減る事を往診ほめて去に
夜學教室眠たい奴は寝さしこき
歸還してから福運が付き纏ひ

上 京

言傳けを上京たんここまづかり
ボンパンの音のせぬのを笑ひ合ひ

早熟の子が恐しい女親

大阪府 西尾 葉

実績がおまへんミ酒屋の無愛想
親馬鹿が行方不明の子をつくり
佗しさは徳用マツチあてがはれ

まねき猫且那の噓遠く聞き
下關 櫻川 不水

役人にややらぬ親爺五十過ぎ
洒落くせえ猿かな俺に齒をむいて
風向きを測り賽銭放り込まれ

廣島 濱田久米雄

埋立地しこたま稼ぐ廣さなり
春を逃がさぬ散髪へ行く
大口の寄附が幹事をあわてさせ

大阪 魚住満潮

そもくの悲劇人間米を喰ひ
大臣の不平等の暇が無し
眞剣さ今日喰ふ米の無い事實
けだものがけだもの、皮頸に巻き
七轉び八轉びつかんだものも風
靈柩車巡査にバックさせられる
陰膳へ母は決して泣きません

大阪 清水史路

妻機嫌野球放送眞似てゐる
八絃一字意識もや、除名され
古事記にも讀ましてい、ここ悪いここ
合格の子へ誇らしいお蔭さま

兵庫縣 水谷鮎美

友愛に春が擴大されてゐた
公休日芽を踏むまいとする日向
犬の仔を貰ふ約束眼鏡拭く

くさかねぢをくはすおんなのうつくしき
妻の留守合せ鏡をしてみたり

名古屋 吉田水車

君は西僕は東へ雲遠し
寫るほぎのウキンドを女見逃さず
節約の見本のやうな妓の名刺

大阪 須崎豆秋

國防婦青年にやわらかものが見へ
天引天引九・一八の袋から
塔まんじゆなんほ焼いても間に合はず
豆炭をわけて貰ふに手を合し

大阪府柏原町 宮岡白峯

支那米へ明日の豫算を笑つこき
影膳さ云ふへ母親涙ぐみ
生還の今日を呑んでる君さ僕
川に寝た野にも寝たのへふけてくる

大阪 正本水客

春風へ若い心をなくすまひ
外人さ並んで足をくむバツト
旅の或る日を大安さ氣付く
十九てふ山田五十鈴に似て喋り
なんほでも呑むさ客を白げさせ
松林老後の話なごもする

役人があほらしくなる金の桁

豊中 黒川紫香

縁側で話せばボール飛んでくる
汐干狩沖の汽船へ息をつぎ
舞妓にも合はず祇園の晝をぬけ
軍事便糸屑つけた母が受け
踏切の先頭をきる馬の首
祝箱一錢入れたたま、忘れ

大阪 丸尾潮花

令嬢に茶を運ばれる應接間
美しい眼にかこまれた指定席
い、人を千日前の雨に待ち

大阪 大坂形水

氣まゝの數々主家のふる天井
暇乞ひ御寮人さんが酌いでくれ
想 出(二句)
谷町は丁稚車へきつい坂
鳥打ちの○さんだつた僕だつた

大阪 岩橋双虎

壺焼の匂ふ出店でワカメ買ふ
憲兵の姿が要塞らしくする
公園の若葉に風のある日向
病身に見えてするさい聲をもち
二人前食うて角力取志願



町横柳川

★川柳の
玉子
十七八年
も前、大
阪日柳
壇や川維
の創刊當
時に投句
してゐた
和歌山の
久榮が突
如として
川柳に復
活すると
云つて來たので死んだ子が蘇つ

たやうによろこんだ路郎、ハタ
と膝をたいて「なるほど養鶏
業ではかへる筈だ」
★醫者の看板？
高田義一郎博士曰く「商賣は廢
業同然だが、庭に孟宗を植ゑた
ら天を衝くやうな數になつた。
自慢ぢやアないが、ヤブ醫者の
看板として、これに越すものは
あるまい」と。何んと御挨拶を
して、い、やう。
★廢物利用、上には上
物資愛護で、廢物利用が聲頭
し、封筒の裏返ししが一種の流
行となつたが、事變と關係なし
にズツと以前から、これが實踐
をしてゐたのが普天、近ごろで

クラウン万年筆
書きよくて 堅牢!
純國産の 優良品
ムツソリーニペン發賣元
大阪株式 澤井商店



評月川柳一筋

路郎・かほる・丹路・孤蓬・八歩・銃人

孤蓬 前號は川柳塔より近作欄の方が活気がある様に思ひますが、よく言へばそれだけ川柳塔の諸氏のレベルが、平均に揃つたと言へるんじゃないでせうか。

丹路 そうですね、矢張り一つは野心作が少くなつたとも言へます。それから最近、閑秀作家が目立つて殖へましたな。

八歩 提出川柳塔及び同舟近詠

きりくのとこへ女房又孕み生れまらずとも言はず五人目ははらみ 渡邊曉童

八歩 私、先生長男が生れたのですが——二人目なんですけど——そんな関係で、子供が生れたと云ふ事柄の句の中で、この二句が特に眼につきました。

この嬉しさ放送局よ知らんのか 今日からはババだ子なしが馬鹿に見え 同 同

産婆からまづ父さんの名を呼ばれ 同

等は、同じ様な立場で詠まれてあるのですが、感激性が強い。貝卸の表現法を以つてせば、後の三句は密豆で、前の二句はフルーツの感じですか。そこで、前の二句に就いて作句上に於ける何か御感想はありますか。

路郎 ぎりぐりの句を詠む

と、時局柄諸物價暴騰と云ふやうな社會情勢に壓迫を感じてゐるサラリーマン生活が、よく出てゐると思ふ。その點「生れまらずとも」の句の方は大ざつばな言ひ方をしてゐるだけに、前者よりも感激性が薄いと思ふ。先程から云はれた五句の中では「この嬉しさ」の句が一番微笑まされる。何と云つても初めて子供が出来た、その嬉しさと云ふものが潑瀾として眼に映つて来る。表現としても自由であり、奔放でもある。

八歩 感激性が強いために句の強さも多分に出てゐると思はれるのですが、年齢といふ様な點が含まれてゐるんじゃないでせうか。

路郎 さういふことも云へるが、年齢の違いばかりでなく、常に感激なくして句を作るからして——勢ひマンネリズムな句になるのである。

孤蓬 この嬉しさの句を提出しようと思つて五重丸をつけてたんですが(笑)八歩さんに取られてしまつた……。

八歩 失禮しました。

孤蓬 (續けて)この句が問題になりましたので喋らして貰ひますが、おそらく、オギャーの生聲を聞いた時、丁度隣でニュースの放送が何かあつたので、それよりも、この子供が生れた

事や放送して呉れと——尤も前書がついてゐるが、前書なしに獨立した句であつてもよい——これこそ日本中のラヂオで、これを知らして呉れと云ふ境地は川柳人の境地——輕氣球で一萬

建國二千六百年記念「柳誌皇軍慰問」

★戦線將兵の活字饅饅に「川柳雜詠」を慰問品として御發送になりたい方は(一)柳誌慰問發送者名・雅號・住所(二)慰問柳詠の受取人の氏名隊名又は住所を明記(三)川柳雜詠の號數部數詠代前金(郵税本社負擔)で本社内柳誌皇軍慰問係宛に御申込になれば本社(代理發送の手續をいたします。一部からでも取扱ひいたしますが二千六百部に達したら打ち切りです。慰問誌發送者名及び部數を毎誌誌上に發表いたします。至急御申込下さい。戸田孤蓬氏二〇部 小川行三氏二〇部

ツハ……。

丹路 白面人さんもお嫁さん貰つたら、こんな句を川柳塔に出すかも知れませんか。(笑聲) 孤蓬 ハッハ……、石井君これ讀んだら怒りよるかも知れんが、(筆記者へ向ひながら)僕は借があるから一寸位怒る様に書いて下さい。

銃人 これはきついですな僕も近いですが、銃人さんはもうきまつたんでしたね、これは。(爆笑)

丹路 そう、戻ります、これは「男産みにはとり程のさわぎやう(としを)の句にしても」この嬉しさの句にしても、現實的

に見えて來ますね。「ぎりぐり」の句、「生れまらず」の句の方が概念的ですね。

八歩 ぎりぐりの言葉は面白いですね。

孤蓬 印象的と繪畫的。

路郎 提出川柳塔

何處折つても鹿の角じみいぢぢくの木 山本耕一路

路郎 面白く譬喩法だ。葉の落ちつくした冬など、特にその感が深い。

孤蓬 いちぢくが鹿の角に出世したところですね。その隣の「尺獲虫メイトル」になるとなるまい」との句も面白い。

丹路 提出川柳塔

子の遊ぶことに乞食の眞似もあ

加藤ライト

丹路 この句を私は相當に買ひたいのですが、扱て、この句の何處が氣に入つたか、又はどうした點が、秀れてゐるかと云へば、自分でも一つはつきり云ひ得ないのです。その辭に相當買ひたいと云ふのは矛盾してゐるのですが、矢張りこの句を見逃しにする事は些か心残りがありますので、皆さんの御感想も逆に聞きたいと思ひます。

路郎 同じ遊ばにしても、子供だけに乞食の眞似なんかをする。それが大人の豫想もしない突拍子もない事を眞似ると云ふ處にこの句の面白さがあるのではないかと思ふが、この句の損な點は、孟母の三遷といふ故事がある。

孤蓬 子供の世界の乞食が、大人の眼に見える乞食と違ひます。乞食が厭はしいものだと思ふのは、大人が教へて後の事であつて、積の中のデイオゲネスが味つた、あの超人間的な悦びは、物心づくつかつかない子供の世界にまで生きて居りまして、それが世間の中に深く入れれば入る程失はれて本當にも一度乞食の眞似が出来ると云ふ譯で、戻る事が出来ないといふ譯で、この句は人間が忘れてゐる眞善美の境地を、子供が持つてゐる事や大人が羨やましく詠んだ句ではないかと思ひます。

丹路 結局、孤蓬さんの仰る通り、乞食の眞似すら美しく見える子供の眼を發見した作者の川柳態度は結構だと思ひます。

かほる 提出川柳塔

福島で夜だけ琵琶を教へてる寺井 銃々

かほる いろいろの銃々さんの句から一番好きだんね。

丹路 かほるさん、どう云ふ

氣分の句ですか？福島と云ふ處。町としては古ひのですか。

路郎 雜然としてゐる處で、柄はあまりよくない。

かほる さよ、先生の句で「國を逃げて來て福島島の口入屋」と云ふのがおまん。

路郎 一口には云へぬが職人や労働者が多い。安サラリマンそれに、中等程度の學生、殊に夜學に通つてゐるやうな人たちが多い。東京で云へば深川や本所にあたるのではないかと思ふ。

丹路 人物はどういふ人物ですか——その夜だけ琵琶を教へるといふ様な……。

路郎 役所などへ勤めてゐる人かも知れない。

孤蓬 習ふ相手はさう云ふ階級の人ですね。……大阪の街を詠んだ九句とも、大變面白く讀まして貰ひましたが、一句一句でその地域ぐのカラーを出すといふ事は、誰しもやつてみた事や、扱てやつてみると仲々おさまりのつかぬものになる様に思ひますが、この句のどれも相當に場所の空氣が出ておられます。一番後の「戎橋の春雨に濡れた撥紙紗」の句まで讀んで、それから少し飛んで、夕鐘さんの大阪を去る四句が出て居りますが、第二の故郷大阪をはなれると云ふ前書があるだけに、これははつきりと親しんで來た大阪の姿が出てゐるし、この銃々さんの句は、落つた大阪が出てゐます。今日は先程から、同じ主題を比べる事が多かつた様ですが、この二人の作者の場合も大變面白い各々のカラーも出てゐるし、さう云ふ方面へも伸びて行けるんだと教へられます。



同舟近詠

孤蓬提出||近作柳樽
 大昔マツチなんかはなかつた
 高原悪源太
 孤蓬||愈々孤蓬提出と云ふ事
 になりまして——八歩さんにや
 られて一寸間誤つきました。これ
 三重丸の句を出しませう。これは
 一見して時局吟に違ひありま
 せん。煙草を買つたがボケツト
 マツチは、照草屋にはな
 し、とう／＼貰ひ火した、今か
 ら一二月前の確かな事實がこ
 の句であります。然し、私はこ
 の句から時局吟としてのマツチ
 を採りあげるのではなしに、マ
 ツチからうける——え、と火と
 人間といった事を感じました。

といふのはほんまの大昔、人間
 が二本足で歩く様になつて間も
 なく、歩くに不用な二本の足で
 火を作る事を覚えた、その大昔
 を感じてみたいと思ふのです。
 この句の大昔はマツチのなかつ
 た徳川時代の事を指してゐら
 れるんじゃないかと思ひます
 が、私の今云ふ本當の大昔に火
 を初めて發見した人間の感激、
 それら火を發見した事によつ
 て、人間が打立てた文化、そ
 う云つたものを何かしら句に
 見たいと思ひつゝ、作り得な
 かつたのを、悪源太さんの句に發
 見して、火と人生の文化的な大
 問題を取扱つて戴いた嬉しさか

らこれをとり出したのですが、
 遺憾だと思ひます。
 路郎||ライターを出して)こ
 れだん(笑聲)その人は燈石は
 知らないがライターは知つてゐ
 る。どうでせう。
 かほる||「大昔」と言ひきらず
 に、「昔々」とほんやりといつた
 らどうでつしやろな。
 路郎||「昔々」の方が面白いだ
 らう。マツチがないと騒ぎまは
 つてゐるから、そんなに騒がな
 いでも昔はマツチなんかなかつ
 たもんだよと超然とした氣持を
 詠んだものだ。
 八歩||然し、私は超然として
 ゐるその人が、うらむらくは火
 打石の使用方法を知らないのが

遣憾だと思ひます。
 路郎||ライターを出して)こ
 れだん(笑聲)その人は燈石は
 知らないがライターは知つてゐ
 る。どうでせう。
 かほる||「大昔」と言ひきらず
 に、「昔々」とほんやりといつた
 らどうでつしやろな。
 路郎||「昔々」の方が面白いだ
 らう。マツチがないと騒ぎまは
 つてゐるから、そんなに騒がな
 いでも昔はマツチなんかなかつ
 たもんだよと超然とした氣持を
 詠んだものだ。
 八歩||然し、私は超然として
 ゐるその人が、うらむらくは火
 打石の使用方法を知らないのが

湯呑は書けるが、茶瓶は書けな
 いと云ふ事のない様と云ふ念願
 があるのですが……。
 路郎||湯呑をよく書くものは
 茶瓶も書ける。
 孤蓬||あらゆるものが川柳に
 なるかどうか、何が句になら
 ないかを研究したい。私の「川柳
 二千六百年史」もそう云つた點
 から、つまり第一歩を踏み出し
 て見た處なんです。
 丹路||大きな問題ですね。
 路郎||顕微鏡でなければ見え
 ないもの顕微鏡がなかつたら想
 像すらゆるされないものは川柳
 には扱へないだらう。たとへそ
 れが現存するにしても、句境の
 圈内に這入つて來ないから、し
 かし空想は句の對象として生か
 すことが出来る。
 孤蓬||人間の五感+空想です
 ね。

を、(笑聲)先生、最後にも一つ
 何か……。
 路郎提出||川柳塔
 夕顔の種とはつきり亡妻の筆
 高澤一浪
 路郎||この句はうっかり詠ん
 でると素通りして仕舞ひそう
 な句であるが、靜かに味つてみる
 となかく味の深い句だと思
 ふ。これが朝顔の種でなくて、
 夕顔の種であることも何となく
 哀傷を感じるし、その種を紙に
 包んで抽出の中にしてしまつて
 亡妻の動作から、その日常が偲
 ばれるし、そう云つた事をする
 妻の人の思はれて、實に奥
 行きのある良い句だと思ふ。
 八歩||その前の「別れまです
 うしますか」の句もいゝ句じや
 ないですか。
 路郎||句品に格段の相違があ
 るね。
 八歩||句境も違ふ譯ですね。
 私夕顔の句は風を感じます。そ
 れも心に吹く風を。「別れまです」
 の句は同じ風でも脇の下に汗を
 かく様な寢覺めの悪い風を感じ
 ます。
 鏡人||妻を亡くした人がこの
 句を詠めば、それ以上の感懐を
 持つ事です。
 路郎||ではこの邊で。
 丹路||有難う御座いました。
 (鏡人無記)

翻る燕遊んで居るでなし
 儲け高きれいな連れを春を航く
 遠くよりあれが櫻さ夕日中
 杓のみの花びら何んのそのまんま
 花萬朶先づ食ふ事に取るか、り
 松山 前田 五健
 洋装の女一べつ紅椿
 笠に杖僧に非ざる僧なりき
 廣重のあごにタイヤがバンクして
 兵庫縣御影町 長崎 柳 秀
 ふみ我れに還つて口の泡を知り
 世の中はこんなものは落し金
 安月給無理な貯金と思へども
 思ひ差しこんなな酔ふた座りやう

娘の客を暫し靜かにさせた鯨
 ひこりでも女は生きる術を知り
 松山 渡邊 曉 童
 女房の合穂さかく食ふ話
 日銀の支店たれやら一人出る
 ライスカレーの見本へ春の陽が當り
 神戸 潮田 明 坊
 入試バスもう詭らへて來た云ひ
 船長の宅に土人のもの飾る
 突堤は一萬噸の騒がしさ
 失職の目に御近所の炊くけむり
 世渡りのまたも巨壁にぶつつかり
 賣行の悪い店番裾が冷え
 開店の準備最中につ割り
 賣惜しみ土間は奇麗に掃かれてる
 見積りをする材木へ腰をかけ
 色町は色町の香に春近し
 バイブルを手に物腰のいぢけやう
 下 多田 市 多 樓
 三等車これより小さく寝むられず
 化粧する肌を雀が覗いてる

Sata Special Klinik
 呼吸器病科
 内科
 診療 毎午前
 加藤謙一
 螺長四郎
 電話 1151
 院醫多佐
 四八二八北電 町北島堂坂大

武玉川四編研究 (六)

梅 森 蛭
本 東 魚
塵 山
二 魚 山

(128) 聲か通ると内かから物

省二〇お聲さんが通ると、みんなが飛出していつて見物。内は空になるから、から物は少しおかしいが、家が空になるから、から物ではある。

聖山〇不洗練な句である。而て聲よりも嫁の方が適切であると思ふ。

東魚〇「からッぽ」と云ふが、元來はから物と云つたかもしれない。聲の方が却て面白くはあるまいか。あの娘を占めた奴は、どんな奴だらうと云ふ男達と好男子を豫想する女達とで總出でみる。

(129) 留守に生れてかるい名を付

省二〇〇主人が居れば故事附の名であらう。かるい名は世間によくある名の事。

聖山〇伊勢參宮の留守ならば、伊勢吉、伊勢松。

東魚〇通信不便な時代には、誠にさうもあつたであらう。かるい名は有り来りの名で姪子氏説の通り。

(130) 帆の際を沖の時雨の晴はしめ

省二〇〇一寺沖は時雨であるのに、もう帆の際から晴はしめゆく。海濱の天候變化は興あるもの。

聖山〇橋頭には夕日が赤く輝いてゐる。

東魚〇雲を洩れる日に、帆の輪廓がクツキリしてくる趣である。

(131) 日ころの願ひ極月に死

省二〇〇日頃口癖のやうに言つてゐた通り、

十二月に死ぬとは計算がよい。

聖山〇歌人の西行は、如月の望月の頃を願つたけれど、俗人であるから極月を願つたのだ。

東魚〇人生のお帳面を、びつたり精算するわけか。

省二〇〇別の話だが、十二月今年も死ぬと笑はせて「(武13)など、よからざる願ひをたてて居る者もある。

(132) 櫛箱の底の淋しき手くらかり

省二〇〇庭は油じみて居る。手暗りのために、一しほ黒ずむだ感じが、妙な淋しさを誘ふ。

聖山〇櫛箱の中に小蛇が這入つてゐたといふ、我邦の古い神話がある。

東魚〇「武玉川」に特に目立つ、淡い哀愁を描いた佳句があるが、これも其の一つ。手くらかりなどは、誠に感じがでてゐる。

(133) 月夜鳥の引言に成

省二〇〇月光を慕つて飛出す夜鳴鳥、之れをうかれ鳥とも云ふが、燈がつけばソハ〜とし、兎角家をあげたがる。丁度月夜鳥のやうだと引例にされる。

聖山〇三月は櫻にうかれ、八月九月の月に浮かれ、又八朔の雲にうかれるのは、鴨よりも始末が悪い。

東魚〇うかれ鳥のうか〜と、など云ふ文句もある。

(134) 年忘持く息子が邪魔に成

省二〇〇年忘には馬鹿騒ぎをするもの。此か

せぐ息子は年忘的でなく、親仁の方がピン〜としてゐて、大にやりたがる。

聖山〇親父大に若遣り、大騒ぎして附髪の落ちたのを知らず。

東魚〇有閑親父朗かである。邪魔に成りと云ひ乍ら、親しみが感ぜられる。

(135) 能云ふ人は稀な極月

省二〇〇十二月を喜ぶ人は稀だ。人情だらう。十二月をふ笑つてはすまぬなり(古句)

聖山〇笑つてゐるのは、室咲の梅ばかり。

東魚〇當者にしても多忙に閉口するし、貧者は殊に弱りはてる。我々はたゞボーナスだけが有難い。

(136) 車はやれて淀の水無月

省二〇〇大雨後の水無月。淀の車もこはれた。

聖山〇水車が毀れたのではなく、濁水して回轉せぬのであらうが、「車はやれて」は少し可笑しいと思ふ。

東魚〇矢張り破れた方と思ふ。水も濁れ水車も破れたまゝに、放置されてる處が、一種荒寥な趣がある。

(137) 七の字と他人てはなし十文字

省二〇〇七と十とは、筆の運びが、ホンノ少し違ふ丈け。

聖山〇斯る事を能く句にした、昔の俳人の機智に感心する。

東魚〇質物に十文字に紐をかけるのに對して、この機智を生じたのであらう。

(138) 寄る計引く事のなない年の浪

省二〇〇光陰一度去つて歸らず。(然し小供に返るが呵々)

聖山〇寄ると引くとを對照した而已。少しも興味のない句である。

東魚〇寄せては返へすとはゆかない。この句丈けでは全く面白くない。

(139) 書く事かならて向ふに恥かなし

省二〇〇書くわけにゆかね事なので、先方を辱かしむるわけにもゆかず、先方は更に痛痒

大阪名物
松前屋
本舖
出張店
新日ビル
専門大店
電話法四三番

を感ぜない。

聖山〇何を書くのである歟。貸金の催促状か、それとも艶書か。

東魚〇事柄が書き得ないと云ふのでなく、本人が無筆であるからの意と思ふ。場合は判明しない。

省二〇〇私も最初、東魚氏説の如くも考へたが、他人に書いて貰ふといふ手もあるから、考へ直したのである。三角関係の様な事情。

(140) 男さかりの女坂ゆく

省二〇〇男盛りなのに、樂々な方の女坂を行くのは目立つ。

聖山〇女坂を行くのは、少し氣取屋かもしれぬ。

東魚〇何か病身を思はせるやうな、前句の意味合ひがあるのではないか。或は前説のやうな氣取屋か、極めておとなしい人物であらう。

省二〇〇人物に就ての想像は色々となし得る。一例「聲になる顔は静な女坂」(武13)。

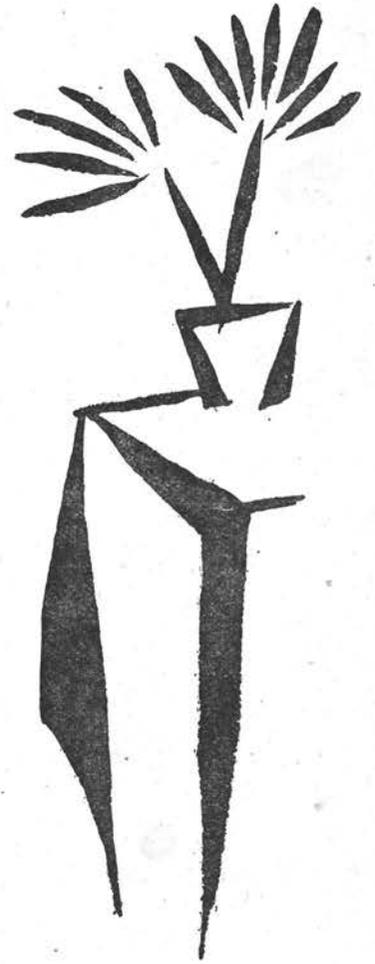
(141) 娘自慢のころほうに逢

省二〇〇自慢娘だけに美しくもあつたらう、遂にさらはれる。

東魚〇さらはれたのである。

樽柳作近

選郎路生麻



飲む人の罪でも有るミ酒屋云ふ 松山 芝田靈子
 貴夫にはもて勝てぬの妻で無事 同
 時間割宵にする子ミ朝する子 同
 中支に居ますミ女うつむける 同
 果物だ煙草だ女中手をつかへ 同
 風に逆ふバーマネットの無惨なる 同
 ニウム鍋女の氣質そのまゝに 同
 秘密會議出て来た表情盗まれる 廣島 大森風來子
 花の下爆音を追ふ妓が一人 同
 新居雜感(二句)
 お白粉の散る中猫も来て坐り 同
 表札の歪みを直す旅歸り 同
 陣中メモを拾ふ
 地に伏して敵弾靜かに聞いてゐた 同
 號令はなくても地の利を得て進み 同
 逃げる爲め撃つ敵弾のひこしきり 同
 廻轉椅子女の方へ向きたがり 兵庫縣 岩崎水虹
 櫻櫻まだ 浪人の生活だ 同
 遺失物火の無い廊下で待たされる 同
 卒業をした娘が肥えてゐる座敷 同
 床屋政談日和見主義を齒痒がり 同
 海ばかり見て暮してゐる發電所 同
 卒業證書個人主義者ミなつただけ 同
 わかつてるよわかかつてるよミ中學生 京都 大照演算子
 残されたやうに虚無僧街を行く 同
 手土産に負けないだけの夕メを入れ 同
 わが家のごたごた文士みんな書き 同

西部戦線巨砲比べて恙なし 同
 風邪に寝て議會の記事が面白し 同
 ロマンスのないでなかつた女教員 同
 廣 東
 日影墮ちず 回教の塔のがみ 東京 阿部美也子
 廣東にべんぐ草も咲きました 同
 六榕寺佛は既に盗まれて 同
 日本語の唄支那の子は天を向き 同
 笑つてるだけで通じる廣東娘 同
 アイヤーワイワイミ樂し支那の友 同
 母親の法名讀めるまで育ち 京都 伊藤入仙
 レコードは虎造でよい作業服 同
 兎も角も二人出て見る倦怠期 同
 これからの運見てもらふ日の素顔 同
 儲からず歐洲のこみ株のこみ 同
 順を待つこみに馴れてる小市民 同
 所得税届ける丈けの子澤山 北海道 前山北海
 悪者に成り手がなくて揉める家 同
 背戸に付つ叱られた子へ虫の聲 同
 「改造」を讀み耽つてゐる暇な店 同
 勧誘員子の腕白を譽めて行き 同
 花吹雪英靈村へ戻つて來 大阪 一 笑
 いろ男親の死に目によう逢はず 同
 白濱温泉
 楽しさの中に重荷を意織する 同
 姉の死 同
 春寒くしほれた花のおきごころ 同
 うつくしや母は佛の手をくませ 同

貝 鈞

岡田某人

乏しいといふことが直ちに貧しいといふ事ではない。前者は物質的であると共に、ある眼界がある。ところが後者はむしろ精神的なものであつて、貧しいといふ自覺それ自身が貧しいのである。そしてこれには眼界がない。金殿玉樓に住み、美味佳肴、品物の山のとりでにかこまれてゐても、こいつは決して貧しくないとは云ひ得ないのである。物を捨てよ物を捨てよ。金銀何するものぞ、單なる契約ではないか。

古來聞えた藝術家は物質にめぐまれてゐなかつた。といふよりも、めぐまれてゐなかつた爲に彼等は藝術家であつたといつて可い。

泣くにも泣けない、こんな氣持がある。しかもその氣持は誰にも語る事の出来ない種類であり、話しても何の足しになるものでもない。こいつが一番こたえるのだ。

柿の木

病室手帖(その六)

叱られて柿の木粥をくむてさる
 「狐の茶袋」にある句がそれだ。「續猿蓑」の『年切の老木も柿の若葉かな』(千川)もそれである。斯く「責」は怖しいが、「嫁」の方は、『汝南圃史』に、正月元旦辰刻、將斧班駁敲樹、則結子不落、名曰嫁樹是なり。又、文昌樓錄云、楊州李冠郷所居堂前杏一株、極大多花而不實、一老嫗曰、來春爲嫁此杏、多深忽携尊酒云、是婚嫁撞門、酒索處子、裙繫樹上、已尊酒辭祝再三、家人晒之、明年結子無數とあり是れ嫁樹の義なり。(嬉遊笑覽)。斧で樹を



インテリと言ふは冷い顔だつた 廣島 石原伯峯
 もの憂い日車掌の聲も尖つてゐる 同
 愁ひあるひさの涙の美しき 同
 死ぬと言ふこぼの魅力十八・九 同
 院時計質店からの音になり 同
 病院の午後ラケットはよく響き 大津 酒井美知夫
 レントゲン安心しろいふ如し 同
 笑ふのをこらへ看護婦横を向き 同
 出征の旗が吹雪の中に立ち 同
 體列を亂さぬ努力松葉杖 同
 辯解を聞こうと葉巻深く吸ひ 名古屋 鈴木可香
 恩知ればこそ弱點を黙つてゐる 同
 潔癖に出された箸が濡れてゐる 同
 新學期僕も持つてる腕時計 同
 立腹へ課長室内往き來する 同
 綿だまの轉がる様にひよこ驅け 松山 山本耕一路
 人絹の様に芭蕉の葉は破れ 同
 尺獲虫世はメートルになりました 同
 紙芝居樂書多い扉に立ち 同
 鳶が輪を描いて敵機を見ざる 國 同
 病勢はつるの見る花を生け 野島 野島神樂
 花形の社交安外醜婦なり 同
 特許權三つも取つて恵まれず 同
 常識で大學使ふ老夫婦 同
 あまこちもわるく四十の戀終る 岡山 鈴木九坡
 美容院同じあたまがならんで出 同
 袖の下貰ふた話派手にする 同
 新米の悲しさすこし離れて居 同
 有り難うお世話に成りました病院船 海部 小川靜觀堂
 王さんを待たせた春の風が吹く 同
 草分で民團長を名乗つてゐる 同
 觀覽席前後左右の大ツ尻 同
 外米の御飯黙つて喰べました 大阪 富岡巨人
 顔洗ふ水も五月さ云ふ感じ 同
 一應は斷はつて見る附届け 同
 娘三人上原謙の話なり 同
 ランデブー餘りに月が明るいな 同
 クチ臭い小金を貯めて嫁き遅くれ 同
 ホール藤井友郎

椰子の月郷愁を、るばかりなり 同
 マネーヂャーのアドロソバイブ氣樂々 同
 にもか、はらす双葉山轉ろび 京都 八田鐘生
 ソプラノをまじへ御詠歌よく揃ひ 同
 嘘を吐くこぼは知つたニヒリスト 同
 此處だけの話こなつた理想論 同
 眼帯をさる春の部屋明る過ぎ 東京 田中青風
 公債を買つて似たもの夫婦ゐる 同
 商畧へ先代様を例に引き 同
 硝子ペン老職工の便りにて 同
 猫の顔魚を盗んだ事もある 愛媛 米澤晴明
 繰返し讀む教へ子の寫眞記事 同
 急カーブ女車掌の姿態が出来 同
 卒業生を送る會 同
 校長の手品送別會の華 同
 伯父逝く 同
 恩讐を越えて臨終引き受ける 大阪 山本葉光
 水臭い酒さへ夜伽に廻りかね 同
 亡父に似たよさを久しい人に訊く 同
 食慾が進まず慾のない日なり 同
 柳腰子供が欲しい神詣り 廣島 西野みづほ
 大島が似合ひ伯母様未亡人 同
 線路工夫満々ので春を堀り 同
 貧乏は子の宿題も寄せ付けず 尼崎 山田南濃路
 金力で支へる美貌たのしかろ 同
 酒なくて女房の役が務まらず 同
 幼年工チト八ッ割が大きすぎ 大阪 山川富士
 轉業の話へ巡查のつてくれ 同
 閑取りは丁稚の知らぬ間に儲け 同
 榮養價など博士の瘦せてゐる 下關 東方司休
 スフであるらしく娘は腰を掛け 同
 琴を弾く娘のスカートが短かすぎ 同
 上級へ進んだ友は振り向かず 大阪 西田白雨
 満員車倒れる事も許されず 同
 紙芝居日本魂説いてゐる 同
 出戻りの姉を泣かせる部屋もなし 兵庫 森本秋子
 折靴不平に馴れて子が五人 同
 眠られぬ眼に美しい壁畫の娘 同

ふ。後日再び言ふ事にする。
 「聖書民俗考」の著者別所教授は、「フレイザはマレーヤ其他で、日本と同じならはしのある例をあげてゐます。南スラブのアルガリアのお百姓達が、果樹をおどすのはクリスマス前夜ださうです。一人が斧を上げて切るぞとおどすと、はたの者が、なりませんから切らないで下されと頼みます。三度斧をふり上げるが三度わびます。それで實がなるといふ事等、日本とそつくりです。イギリスのデヴオンシャヤアの百姓がクリスマス前の晩、リンゴ酒をリンゴの樹にそ、いで花さけ實れと祝ふのは、支那の嫁樹に似てゐます……パレスチナは地中海邊の國の一つとしてオレイフルだの、イチヂクだ、葡萄だの果樹

に、人々の頼る度が日本よりも強い國でした。今でも果樹栽培は大事の産業であります。それにまた樹も乏しくて燃料にさしかえてゐます。それで實のなる樹なら、さつさと薪にしたのです。それで「斧ははや樹の根におかる。さればすべて善き果を結ばぬ樹は、伐られて火に入れらるべし」(マタイ三ノ十)といふ豫言者の叱咤も生じました。『世界的風習なのだから遣したいと思ふ。』

備前の一地方では、元且に紙片へ大豆一ヶと米粒三ヶを包み、兩端を撚りたるものを澤山作り、果樹に結びつけ、「よけいできますやうに」といふ。「責」の變態の一例である。(二月上瀆記)

改名

吉田水車

改名へそこはかとなき名が賣れる 水車
 近頃ケシカラン名前とあつて俳優等の改名が喧しい、と言へばまだまだ改めてほしい名稱が幾らもある、電髪で鳴りを潜めた美粧院にも外人張りの名前が多い殊に東京に多いのは皮肉である。此頃は多少減つたが喫茶店では「日本茶」と言ふのがある一體此處は何處かとたづね度くなる、そうかと思へば先づ外人の御用はなかり相な床屋の看板のしかも緞りの間違つた英語に

はむしろ氣の毒に思へる。運動の方で野球選手團に随分とスツパイ名前が多い、野球と言ふ名稱が既に日本化されてゐるのだから團名も日本名前で支障がない筈である。日本ラインだの日本アルプスだのも一考の要があるらふ、しかし之等は國際的な意味を持つものであるから必ずしも現在のものを變へることもないが我々丈はせめて美くしい歴史的名稱で呼び度いものである。其他とり上げれば限りがないが變へられる物ほどしどし變へたがよい。

柳界展望

催
 ▼川柳雜誌社本社句會(五月四日午後六時)南區八幡町佐野橋筋角、御津八幡宮、兼題「デパート」
 ▼大阪鐵道病院一周年記念句會(五月廿日)後四時半天王寺驛東約三丁同病院醫局、兼題「慰斗」「健康」
 ▼松坂俱樂部麻生路郎川柳講座四月七日廿一日後一



花活けて夫唱婦隨に不平なく 大坂 平川久枝
喉巻いた男肩巾細くたち 同

極樂の鍵へさはつた春の旅 同
事變地圖いつか埃がたまつてる 同

本籍を疑ぐられてる下關 同
課長まだ頑張るらしい咳拂 同

お茶漬でいゝにミリの母座り 廣島 長谷川秋史
エプロンを外し先生様ですか 同

口笛で鳥を啼かせて鳥屋ひま 同
戸植傳ふ雨に故郷を思出し 下關 濱田賢次

外燈にだけ降り積る雪が見え 同
人の世話迄はささかぬ大晦日 同

公定に賣りたい品が見當らず 大坂 畑田よし江
人的資源に秀才病んでゐる 同

愛國の心外米食へこなし 同
先生ミ連れ立ち歸る夜學生 尼崎 吉乗りきを

春風もなびけ從兄の出陣に 同
女給戀をしてお女將さおり合はず 同

ほろ苦きお茶に無限の親しさを 今治 鳥生古弗
停電の時計ミ今日も事務を執り 同

財布忘れて競賣を見て歸り 同
恩給で倦意いよくつきまこひ 朝鮮平 松田弘龍

「大地」を該む妻を迎へる日 同
妻に見せるための體軀を洗ふ春 同

日もすがら鉄を鳴らし疲れたる 同
傷痕章片腕でいゝ職に生き 瀬戸 佐藤叫史

戦死した兄の背廣がよく似合ひ 同
同情のミかく終いは恩にされ 長野縣 上田田 佐二木千隈

ベヒが出てコースが替はビクニツク 同
節米へ強く生きてる遺兒の母 大坂 吉川琴聲

育兒法妻の意見に逆らはす 同
山櫻たがひに褒めるにぎり飯 大坂 大瀬戸翠葉

歸還する友へ櫻は眞つ盛り 同
にぎやかに信號を待つランドセル 大坂 今西湖秋

丸刈にするに二三度念を押し 同
春風に乗つて苦力の船が來る 新嘉坡 藤崎桃子

奉賀支那新政府 脈々ミして動き出す新東亞 同
大陸へ妻もその氣になつて居り 島根縣 吉田孤舟

弟高工合格 合格の慶び後は金のこころ 同
油断をすれば驢馬サボツてゐる 大坂 笠原路生

ノツクダウンせられた様に馬倒れ 同
チブス菌事件 法廷にちらりこぼれる振りの紅絹 大坂 樋口きみゑ

休みでもおひまはされる世帯長 同
防犯展ぎの人影も目がすごい 關西縣 高田抱逸

モンペでバレー遊びもする社宅 同
身ごもれる妻あきらめて花のるす 大坂 中西彌生

財産をあてに嫁たのミ違ひます 同
女泣かせしそなた抱き上げる 大坂 並木南風

しりませんミツツばねられる電話口 同
可笑しくもないに笑つて無事勤め 高知 岩原風味

献金へ大日本の美談集 同
ルンベンの足も洗へず二千圓 大坂 朝野久人

湯から出たこの手が本當の僕のもの 同
禁煙も女のミこで破れがち 大坂 丸島利生

風月を友ミするには惜しい年 同
附添の母がつかれた入學日 大坂 梅田秀溪

新妻ミ並んで降りた熱海驛 大坂 東川春夢
前科をばつぐなふ戎衣眞つ先に 廣島縣 梶川芳郎

十圓也飲まされたこのマツチ 大坂 上沼凶人
子を抱いて断りに出る妻ミなり 西宮 花柳蘭子

旅に出る友の自由がうらやまれ 兵庫縣 森本花子
雑草へころべは歌が口から出 大坂 青野笑門

ヴァイオリン基本ばかりで花も濟み 大坂市 河合明子
關係のない戀見てる中の島 大坂 木下り子

挨拶の代りにもの無い噂 名古屋 吉田文女
アルバムへ妻割合にいゝ娘 島根縣 内田徹三

親程に案じてゐない入試難 奈良縣 嶋田翠峯
春風が矢張り嬉しい母の文 大坂 奥田綠翠

水引を大事に中を見せられる 大坂 奥田綠翠
服装が違ひ満洲行ミ知れ 下關 岩崎松翁

時▼有恒川柳會、四月十一日廿四日午後六時▼尼崎住友金屬工業親友會川柳會、四月十五日午後七時▼川柳雜誌社月評會、四月十六日夜、丹路居▼阪大川柳會、四月廿六日午後四時

消 息 ▼魚住滿潮君(不朽洞會員)は四月十六日上洛、櫻はあとまほしにして草笛吟社の鏡部當千坊君をはじめ淺田憲坊君、芝田子寛君等を訪ねられた由。

▼金井串郎君(大阪)が三月下旬に入隊された▼森東魚君(新居濱)が四月二日に來社されたが、生憎路郎主幹が不在だった。

創刊・終刊 ▼川柳三味社では四月十五日に川柳三味社報第一號(四六倍四ページ)を發行した事務所は京

城府旭町一ノ一(南加川柳)(ロスマンゼルス)は三月廿五日發行の第四號を終刊號とした。

▼川柳のみが時局を認識し、通巻三十號(再刊以來十六號)の三月限り廢刊した。

改號・改姓 ▼朝野光路君(大阪)は久人と改む。▼松田弘龍君(朝鮮)は朝野と改姓により舊姓を松田と改姓された。

慶 弔 ▼北川春葉君(不朽洞會員)は四月廿二日に芽出度華燭の典を擧げられ。▼中原鏡人君(不朽洞會員)は四月廿八日に住吉神社に於て結婚式を擧げられること、およびおひ申上げる。

▼吉田湊万君(大阪)の嚴父が四月二十二日に永眠された謹悼。

▼鶴峯福田覺市君(島根縣)は大坂に於て病を得、昨來年郷里に病を養つてゐたが三月廿五日午前四時四十分遂に起たせず、嗚呼。君は本社の同人組織時代に多年同人として活躍されてゐただけに一入哀悼の深きを覚える。未だ春秋に富む身であるだけに惜まれてならない。行年四十一、法名は成譽覺道信士。

▼上山よし美君(大阪)の寶弟吉三郎君が三月廿一日急逝された哀悼。▼米谷松大樹君(大阪)の養母キヨさんが四月七日永眠された謹んで悼む。▼川維廣島支部の山縣久子嬢(廣島)は四月九日十九歳で永眠謹悼。

轉 居 ▼小林燈舎君(不朽洞會員)は大坂府北郡尾尾村上野芝六七二番地へ▼都山初美君は下關市長崎町上保二一五七賀和一様方▼中原鏡人君(不朽洞會員)は堺市神明町西二丁二七番地へ。

★社 告 ▼支部の異動 ○下關支部は同市長崎町に移る多門市多樓君幹事を辭任東方司半休君後を襲ふ。

▼左記の諸君が不朽洞會に入會された。 大坂 西川愁水君 同 中内翠芳君

▼四月十四日、第一編輯日、午後から黒川紫香君來洞。

ドレス ツクリ
生地の見本 3000種
大坂市南區心齋橋一ノ四四
電話南2719



柳川

二千六百年史 (五)

戸田 孤 蓬

徳川時代 (三)

○井伊大老

(四七四—二五〇)

断を實行した一人。相手が悪く環境が悪い。對外關係を元寇時代の單純さで處理出来なくなつた。小塚原の返り血を浴びて櫻田門外にはた。彼も又偉人の一人。

○生麥事件 (二五二)

丸に十の字の御供先を横断した碧い眼三人は無惨にぶち斬られ、その結果は英船の鹿兒島襲撃となり東郷平八郎が初陣の功名を顯す。

○蛤御門の變 (二五二)

朝令暮改の廟議。長州がその槍玉に上つて七郷落ちとなり、蛤御門の變となる。薩摩はじつと長州の行動をみてゐる。蓑笠を草鞋を無理にはかざれる。

○下關事件 (二五二)

學國不一致、眞綿で首を締め、長州と云ひ薩州といひ彼等

の實力を見た事がどれだけ將來の参考になつた事か。

明治時代 (一)

○大政奉還 (二五七)

待望の長州と薩州は聯合して、一氣呵成に討幕軍を起した。伏見鳥羽の戦となり、十四代將軍慶喜は二條城で大政奉還を宣言する。

○長州征伐 (二五五)

長州受難時代、しかしいざ對戦してみると天下の勢をもつてしても一寸と齒が立たぬ長薩聯合の氣運がそんな所から芽生える。

○五ヶ條の御誓文 (二五八)

明治天皇登極のはじめに下し給へる五つの御誓ひ、これこそ躍進日本の動向を示し給ふものであつて、明治四十五年史は全く御言葉通りの發展をした。

○江戸城明渡 (二五八)

下向の官軍と幕軍の一部が上野で戦つただけで江戸の街では福澤諭吉が平常通りABCを経済學を講義したりしてゐた。

○車駕東行 (二五八—二五九)

富士の裾野が霞んで紫の鳳凰がさすむ。江戸以北の戦火も一段落をつけ、こゝに一千年の古都をあとに都は東京へ遷つた。鳳凰の眞上に富士がくつきりと

○王政復古 (二五八)

後鳥羽上皇が、後醍醐天皇が御金願遊ばされた我開僻以來の本態に立ちもどつた。薩長は通辯の要る話をし

軍服を着てもやつぱり帯を締

○公使派遣 (二五三)

下田の玉泉寺には早くから星條旗が立つてゐた。我國も公使を任命して國交調整にのり出す。

○廢藩置縣 (二五三)

殿様をすつかり知事さんにしてしまつた。相變らば御家老が忙しまつた事だらう。

○遺歐米使節 (二五三)

不平等條約改正の腹だけはもつて歐米見物をして来たそれがやがて西郷さんを殺し使節の木戸を大久保をも亡す結果をまねく。

○西南之役 (二五七)

昨日は陸軍大將とあがめられた隆盛を城山に圍む官軍も心苦

○天津條約 (二五四)

朝鮮問題で日支間に結ばれた最初の條約、相手が支那だけに何處か頼らない不安が去らない。婿二人いつまでつゝく約束か

○内閣の制度なる (二五四)

大化改新の大室令の太政官制はこの時を以つて廢された。今日消える太政大臣淋しがり首領なら俺も何時かはなれそ

勤王殿様は思ひをそのまゝ、實行出来る様になり、第一に手をつけたのが土地人民を御返し申し上げる事であつた。その結果武士は失業しその内から士族の商法なんて言葉が産れた。

○學制々定 (二五三)

寺小屋がすぐ小学校になつた譯ではないが新しい制度に即應し得る準備は徳川時代に出來てゐる。

○徵兵令發布 (二五三)

百姓が兵隊になれるんだと云ふ事は武士階級の一大異變、新舊思想の衝突は地方の小競合を起す原因となつた。しかし百姓の弱くない事は西南戦争で證明された。

○京城事件 (二五四)

征韓論の時やつておかなかつたので過痕は朝鮮に於ける日支間の摩擦となり、事大黨、進歩黨問題が激化する。

○國會議設の勅語 (二五四)

歐米流の自治思想が輿論となつた。聖慮は彼等に先行し給ひ國會議設を御約束遊ばされ我國獨特の憲法起草を命じたまふ。

○府縣會はじめて開かる (二五三)

眼を内に向けた連中が國政料理を第一にして万機公論の初手ははじまつた。

○廢佛棄釋 (二五〇頃)

古事記が日本書紀が明治維新の指導原理なのだから支那や印度くさいものに迫り立てを喰はしたのも時として止むを得な

しかし具眼の士がゐてこれは一時的の現象に終る。

○西南之役 (二五七)

昨日は陸軍大將とあがめられた隆盛を城山に圍む官軍も心苦

○天津條約 (二五四)

朝鮮問題で日支間に結ばれた最初の條約、相手が支那だけに何處か頼らない不安が去らない。婿二人いつまでつゝく約束か

○内閣の制度なる (二五四)

大化改新の大室令の太政官制はこの時を以つて廢された。今日消える太政大臣淋しがり首領なら俺も何時かはなれそ

○京城事件 (二五四)

征韓論の時やつておかなかつたので過痕は朝鮮に於ける日支間の摩擦となり、事大黨、進歩黨問題が激化する。

○國會議設の勅語 (二五四)

歐米流の自治思想が輿論となつた。聖慮は彼等に先行し給ひ國會議設を御約束遊ばされ我國獨特の憲法起草を命じたまふ。

○府縣會はじめて開かる (二五三)

眼を内に向けた連中が國政料理を第一にして万機公論の初手ははじまつた。



電北 四五 六五 七四 八五 番



募集句 一路集

やげん 山雨樓選

やげんどの指へ見合いの日が迫り
 やげんも纏持と云ふ誇り
 やげんの手易者天眼鏡で大きく見
 やげん跡隠す聲が良く似合ひ
 責任がこんなやげんにしてしまひ
 やげんとして醫者に得意のない長屋
 やげんなど氣にして居れぬ向ふ槌
 刀鍛冶やげん重ねた手で鍛え
 火傷の記憶を辿る冷い汗
 恐ろしくやげんので變る顔の相
 仲人はやげんの事も軽く觸れ
 やげんとあと三日月さまに似て居る
 舌の尖やいても食べるだけは食べ
 やげんの子母は泪の日は續き
 やげんとして今日は主人のふき掃除
 福相の耳をやげんの手でつまみ
 春の陽をさけてやげんどの娘が通り
 やげんだけうまく逃がれた灰かき
 人相と運がかはつてやげんと癒え
 やげんとした子からおやつが渡さる
 やげんからコッスを憶えた見習工
 やげんどのあとをかくす道心
 春の旅マツチで指をやげんとする
 (五)やげんとして娘盛りをいっ過ぎ
 (五)運のない話火傷の事にふれ
 (五)やげんとするや湯槽で浪花節
 (五)やげんどのまじなを聴く山の宿
 (五)玉の汗やげんどの跡へ来てす
 (人)お姿にやげんをさせて爛熱い
 (地)やげんと手で税金が差し出
 (天)やげんとして愚かな我を想ふる

久枝 不水 巨人 抱逸 古弗 神樂 彌生 芳郎 みづほ 照波 孤舟 一水 春巢 二乙郎 曉明 水虹 翠葉 市多樓 葉光 琴聲 同客 水客 同 翠葉 市多樓 凶人 みづほ 葉光 青風 水虹 曉明 照波

商店法 水車選

たのみの妻は十時へ念を押し
 商店法足並揃ふ銃後なり

照波 嵐川

裏町のひとと處明い午後十時
 午後十時追ひ出すやうに水を撒き
 商店法思ふ様には休まれず
 商店法思案の客をもて餘し
 商店法ですと素氣無く断はられ
 將棋指す時間も出来た商店法
 店員の時間氣にして掃いてゐる
 品不足十時きつちり店を締め
 都合よく商店法に追ひ出され
 商店法一人残して仕舞かけ
 遠慮ない音で小僧は大戸たて
 商店法買ふ決心をさせられる
 午後十時戸を閉めかけて一つ賣り
 商店法よなきこれから稼ぐなり
 花の夜の歸へり淋しき大通り
 商店法當座隣と相談し
 商店法主人もそろて風呂へ来る
 商店法締めた中から珠算の音
 (佳)商店法明日を待てない品も
 (佳)商店法憎むタンドンの火が残り
 (佳)風邪ひいて商店法が有難し
 (佳)商店法老眼鏡につらく見え
 (軸)ちくはと大戸を下す午後十時
 商店法すまぬお客を送り出し

この題は一口に云へば六ヶしい題だと思
 ひます、應募句を一通り拜見して皮相のもの
 が多く、體験的な句が少いのは遺憾でした。
 しかしこれには元來商店法なるものが發令以
 來日が浅いので未だしつくり来ない點もあり
 ます。珍らしい題であるから、新らしい題で
 あるから、い、川柳が生れるに限らないこと
 を證據立ててゐます。よい句の生れるのは作
 者の態度にもよりますが作句的に古い經驗
 と深い省察が必要でです。(水車)

芳郎 抱逸 神樂 きみゑ 春巢 葉光 彌生 久枝 凶人 青風 翠葉 孤舟 古弗 水客 風味 曉明 市多樓 水虹 孤舟 水車 同

懸賞川柳

★化粧新聞社柳壇
 課題「洗 濯」五月十日
 「鏡」六月十日
 用紙は官製ハガキ(化粧柳壇と明記の事)
 選者麻生路郎氏
 秀逸數句に薄謝を呈す
 宛先 堺市出島町三五一番地
 不朽洞

川柳 五月の會

★日時 五月四日夜六時半(土)
 ★会場 御津八幡宮(電話南八六四〇)
 南区八幡町佐野屋橋筋角(木棉橋電停
 下車東一丁・八幡町市バス停西一丁)
 ★課題 「デパート」(五句)……麻生路郎選
 ★講評 (前月句會の句中より)……水谷 鮎美
 ★柳話 「題未定」……岡田 某人
 ★會費 三〇錢(川協章提示の方は二五錢)
 ★呈賞 天位(各題)に粗品を贈る
 幹事 風葉・潮花・翠陽・紫香・孤蓬・
 小松園・里十九
 主催 川柳雜誌社
 電土佐堀 八三三三
 八一一六三
 三三三三
 四三三三
 大阪市西區江戸堀上通二ノ四六(昭和ビル)
 本社の句會は毎月第一土曜

髪は美は
 げに日本の
 姿なり



フケ・カユミを止め白髪・若禿
 を防ぎ明朗な青年美を創る

ドーマホ椿豆伊

綿本油香椿豆伊
 園 芳 彩 楓 大

オムニコンド

非特異性全免疫元

本劑は非特異免疫學說
 に準據して高度の免疫
 力を有する異種蛋白、
 リポイド及び脂肪を主
 体とするものなり。
 (適應症抜粋)
 流感、各種肺炎、肺(膈)胸
 炎、扁桃腺炎、中耳炎、重
 傷熱、其他各科、急性、熱
 性、炎病性、傳染性、敗血
 性、並に化膿性膿瘍、對
 し廣汎に涉り著効を奏す。
 (特 長)
 注射無痛、副作用絶無、用
 法簡單、發効迅速、價格至
 廉。

一呈贈款文一
 (包 藍)
 100管入 2300管入
 100管入 1000管入
 100管入 1000管入
 100管入 1000管入
 發賣元 株式會社田藥品商會
 大阪・東京



藤村誠一氏著

新川柳評釋

定價八拾錢
送料六錢
一冊十五錢
送料三錢

發行所 不 朽 洞
堺市出島町三五二
振替大阪三〇三九二

難波

▼國都川柳集團(新京)では四月廿八日午前十一時から新京大同大街大興ビル青葉グランドで亞川柳大會を開催され午後七時から川柳懇談會を開かれる由。▼川柳三昧社(京城)では朝鮮



ジ一ベの協川

新聞社後援の下に二千六百年慶祝全鮮川柳大會を五月五日正午より明治町二明治町集會所樓上に於て開催せられる由。
▼愛媛川柳社では「川柳伊豫」一周年記念川柳大會を四月廿一日松山市三番丁大阪時事松山支局樓上に於て開催した。
▼海軍將兵慰問のため有恒俱樂部會員の美術作品展に有恒川柳會では麻生路郎講師並に寺井鋭々、田中雨月、橋本波夢造、藤岡至瑩瑠の諸君が短冊を出品してその譽を盛んにした。

▼紀元二千六百年記念川柳大會(京都)が、京都川柳社、御所車川柳社、川柳同人社、草香吟社、京日秀洛會、川柳伊豫の共同主催で開催された。川柳雜誌社からは清水白柳子君(不朽洞會員・川柳人協會員)が出席した。
▼川柳きやりの二十周年記念大會は事變下ではあるがなかくの盛會だつた由。川柳雜誌からは福田山雨樓君が出席した。
▼川柳雜誌社布哇支部の川柳ワイロー社では通信によるリレー

△月×日
「ヘンがねなんぼでも伸びるんだよ……」
「〜とネ流石の俺もシヨチナシ……」
例によつて駄ボラをふいてみると、夢の話が出たのである。いろ／＼の夢が飛び出したが一等兵のヘソの夢物語が一番面白かつた。吉凶を皆で考へたが結局わからなかつた。ヘソの伸びる夢とは、まさかフロイド博士でも御存知あるめえ……。
(シヨチナシは、即ち處置なしで、兵隊は始末に困る場合に使ふのである)

漫 畫 陣 中 鏡 (6)

を き み 北 支 中



川柳の作句を行ひ、「日布時事」紙上を賑はしてゐる。近ごろ面白い試みである。
▼岩崎柳路君(張家口)は同市の民會が民團(天津北京同様)に昇格されると共に官選議員に選出せられた。こは遠き異境にあつて川柳人としての氣を吐かれるもの、遙におよるこび申上げる。
▼橋本波夢造君(在東京)は病狀次第に良好ではあるが五月末までは滞京せられる由一日も早く快癒を祈る。
▼小川靜觀堂大佐(ハイラル)は三月下旬に海拉爾第二陸軍病院長から海拉爾第一陸軍病院長に轉任せられた。
▼石崎柳石君(廣島)は四月十六日から學校に出てゐられる由十七日には嚴島神社の能舞臺での奉納能の見物に行かれたそうて、海中の舞臺衣裳は國寶物として毎年の行事能ながら一度は見ておくべきものだといふ嚴島からの來信があつた。
▼酒井美知夫君(大津)は傷痍も癒え、今は退院を待つばかりになつてゐるそうであるとのこと、第一線にあつて常に作句しつづけた同君のことであるから近く句會に姿を見せるのではないかと思ふと、ひそかに欣びを禁じ得ない。

▼池田享史君(中支)から句信があつた
「東京の夢を見て
戦友の寝ざま
武待母
動待娘紙
雑祭りし」と
▼尼崎の住友金屬工業では四月三日午前八時から高倉稻荷の祭典を執行、親友修養部主催の展覧會では川柳短冊が展開された。
▼村田柳路遺句集「偲くさ」が柳友會の手で編輯された
發行者は未亡人で東京府八王子市新町八宗島君子さんである。

隨想集 詩人複眼

藤村誠一氏著

(寫眞は畫寮の著者)

序 麻生路郎氏
跋 百田宗治氏
裝幀 吉川則比古氏
田村孝之介氏

★「詩人複眼」は月刊「川柳雜誌」へ藤村誠一氏が高鷲亞鈍のペンネームで執筆連載の隨想集に「日本詩壇」「日本文藝」「婦女世界」「上方二十世紀」等へ發表の數篇を「詩人胡座」の題下に一括増補した近代人必讀の書である。定價壹圓(送料六錢)海外送料實費一

純喫酒室

ア ジ ア

ウエーウ 髮 淑

大阪・心齋橋筋周防町角

ナショナル



山 口 倫 子
經 營
電 南 992

各地柳壇

規清稿投

用紙は原稿用紙又は投句箋の事
 文字を正確明瞭に記載のこと
 開催月日及場所記入のこと
 締切は毎月廿五日とす
 投稿先は本社宛

理整秋豆・郎路

本社四月例会(大阪)

四月六日

於 御津八幡宮

出席者(順不同)

路郎・豆秋・霞乃・リリ・きみ多・湖秋
 潮花・紫香・翠芳・一水・龍成・かほる
 富士・巨人・緑雨・鮎美・久枝・孤蓬水
 虹・風葉・指洋・水路・央薫・萬的・一
 笑・八九満・双虎・双葉・アト・星十九

席題「一番台」

互選

降つてゐることを番台言うてくれ 湖 秋
 番台は小猫のぬく味感じたり 風 葉
 白粉を塗る間番台抱かされる 龍 成
 番台へ財布預けてひるの風呂 一 笑
 横向いた儘番台は話してゐる 一 水
 手拭の穴番台に見てとられ 水 虹
 番台に取り次ぎをさす女風呂 潮 花
 みかんの皮捨て番台へ又上り かほる
 席題「速達」 緑雨選

切の間際速達便で出し 富 士
 速達は濡れ手のまゝで受取られ 久 枝
 速達を持つて呼出しやつて来る 潮 花
 出張と云ふ速達が届けられ 孤 蓬
 家を出たあとで速達届けられ 紫 香
 速達で呑む相談に引き出され 萬 的
 (住)速達をはた地下鐵下り来る 湖 秋
 速達に子供もついて這いつて来 鮎 美
 春の陽を受けて速達読んでゐる 一 水
 速達が京都へ行った留守に着き かほる
 (秀)手傳ひにきて速達の封をきり 鮎 美
 席題「のれん」 潮花選

仲人の耳こそばゆきいゝ日向 鮎 美
 耳許へ好かない人を告げに来る 双 葉
 福耳を持つて借金頼みに来る 紫 香
 耳すでに聞えず理想持ち續け 水 虹
 耳打ちで話して呉れたよい話 湖 秋
 馬の耳バスの横手をすれてゆき 紫 香
 耳許で今度逢ふ日を定めてる 双 葉
 誕生日今朝から耳が聞えない 水 虹
 (秀)眞相を打ち明けらる耳を持ち 同 選
 相撲吟「口髭」 互選

打ち明るまでの小心笑はれる 松大樓
 小心を故辛氣くさく思ひ ไลท์
 病人の笑顔へホットしてる母 よしみ
 万歳の聲は笑顔で消えて行き 房 子
 まつすぐに向いた笑顔へ怒られず 孫 六
 御迷惑ですと云ひつゝ一升空け 牛 歩
 迷惑へ番茶はにがいのと知り 双 虎

雑川 廣島支部句會(廣島)

二月二十三日

大森風來子報

言譯に困り眼鏡を拭いてみる 三 昧
 あの眼鏡さんからと難技のお取次 須彌浩
 度のきつい眼鏡で見合無事にすみ 草雲子
 吉報へ眼鏡掛けたり外したり 伯 峯
 履歴書と見較べられる眼鏡越し 秋 史
 金縁の夫人齒が浮く様な聲 八翠坊
 占領の感激愛馬の頬を撫で 清登詩
 感激の口を結んだ腫がうるみ 俗菩薩
 感激をそのまゝ故郷へ綴り込み 樂 人
 世に拗ねて感激性もなく老ける 不 水
 感激へ價値の乏しい笑ひ聲 輕 雪
 入學の確信がありハイキング 江 波
 餘裕ではないぞと金を押して貸し 月 浦
 豫定より遅れて上座に座らされ 紫 浪
 豫定などなしに子供等よく眠り 金 十
 嫁に行く名残り猫へも話しかけ 演算子
 お名残りを惜みたいのが出て来 久米雄
 榮轉の子に仲良しがある名残り 麥 作
 廣島の名残りは夢で見るとせう 白外郎
 すき焼の匂がしてる歸り道 久 子
 歸り道妻の荷物を持つてやり 田 鶴 子
 歸り道自分の影が恐くなり 幽香里
 歸り道一人になつた石を蹴り 狂 兒
 歸り道會つてはならぬ人に會ひ 天 國
 新婚の妻が氣にする歸り道 秋無草
 賣り切つて歸る車に子が笑ひ 風來子
 逆光を浴び給ふ君へ左様なら 久米雄
 京都へ榮轉の演算子君を 送る集ひ(三月八日)

川 鶴町支部句會(大阪)
 三月十八日 岩橋双虎報
 速達で母になつたと云つて来る 清 女
 置手紙男になると書いてあり 善 衛

金屬代用罐
食品用紙容器
アイスクリーム用紙器
製造輸出



二葉屋商店

大阪市住吉區晴明通二丁目四〇番地
電話 事務所用(天下茶屋四一〇四番
工場専用(或)四三〇二番
振替口座大阪九九七〇四四番
郵便私書函大阪天下茶屋局一八番



★前號本欄三越百貨店の
廣告記事見出し「三月
の五月人形」は「三越
の五月人形」の誤植に
つき訂正
川柳雜誌社廣告部

三越



店商納嘉本 株式會社

酒清



のた
めに

妊娠としての大切な責任
はカルシウムを補給し
て諸病を防ぎ、子宮の收
縮を容易ならしめ「安産」
へ導くことにあります。



片瀬醫學博士述
「安産のために」冊子呈上

楢林醫學博士 推獎
片瀬醫學博士 監査

ワダカルシウム錠

大阪道修町 和田卯助商店

大正十三年三月三日創刊(郵便認可)毎月一日発行
昭和十五年四月廿八日印刷
昭和十五年五月一日發行

川柳雜誌

NO. 196

定價金30錢 送料壹錢

にきびとに

美顏水



毒・蚊・南京虫等の
毒虫でカユい時!
然ういふ時にも不思議なほどよく効きま
すので、殊に小さいお子方のある御家庭
などには殊の外重寶がられてゐます。
▲ニキビ吹出物に非常によく効くの
で大評判の薬です。ニキビや吹出物
でお困りの方に大きな喜びの糧ノゼ
ヒお勸したい薬です!

▲定価一紙四十銭・六十銭・一圓廿五銭。全国藥店にあり

ニキビ

ゼ	吹	ニ
ヒ	出	キ
此	物	ビ
薬	に	・

化粧用 美顏水

最	粧	の	ア
適	下	お	ブ
!	に	化	ラ
			顔

5-73